

美しくなければ 技術ではない

技術と美の融合

光を電気エネルギーに変換して動く「エコドライブ」は、使いやすさはもちろん、部品の軽量化、モーターの駆動効率などシチズン独自の技術で極限まで無駄を省き、少ない力で動くよう設計されています。たとえば、100W電球を灯す電力があれば、「エコドライブ」を1億個も動かすことができるほどです。さらに、金属アレルギーを起こしにくいチタニウム素材を世界で初めて腕時計に採用し、身に付ける人の健康に配慮した製品開発などもシチズンのこだわりの技術です。

「美しくなければ技術ではない」、このシチズンの時計づくりへの誇りを胸に、これからも時計の未来へ向けて、デザインと技術の進化を追求していきます。



東京デザイナーズウィーク2011のプレゼンテーションで好評だったAIRSHIP(プロトタイプ)

シチズン時計
シチズンブランド事業本部

高橋 隆行



東京デザイナーズウィーク2012

エコドライブの魅力・可能性をデザインの観点から広く一般の方にお伝えするために、2010年から東京デザイナーズウィークというイベントに参加。2012年は、「デザイナーの脳みそ、見せちゃいます!」というテーマで、デザイナーの頭のなかをマインドマップ(ビジュアル)化し時計ができるプロセスを感じ取っていただく企画としました。これにより、いままでと違った視点でシチズンブランドの魅力をお伝えすることができたと考えています。今後もシチズンの魅力、可能性をさまざまな視点でお伝えすることで、シチズンファンを増やしていきたいと思えます。

サプライチェーン全体で 社会的責任を果たす

経済活動のグローバル化が一層進むなか、企業には、これまで以上に公正・透明で健全な事業活動が国内外で求められています。シチズングループでは、購買取引において、製品・サービスを経済合理性のみならず、法令・社会規範の遵守、人権擁護、労働安全衛生、環境保全という観点からも考慮・選択することで、社会的責任を果たすことをめざしています。

CSR調達の推進

シチズン電子グループでは、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしていくために、CSR調達を進めています。具体的には、「国連グローバル・コンパクト」および「シチズングループ企業行動憲章」に基づき、人権尊重をはじめ、環境保全、労働安全衛生、公正取引などの要請

事項をまとめた「CSR調達ガイドライン」の遵守をお取引先に依頼しています。

今後もサプライチェーン全体で社会的責任を履行し、お客様に愛され、親しまれるものづくりを實踐できるよう、お取引先との連携強化に努めます。

情報通信技術が急速に発展していく昨今、自社内の強みの源泉となる技術やノウハウの意図しない流出など、企業の営業秘密管理はますます重要となっています。シチズングループでは、事業活動の競争力の維持・向上のために、無形の経営資源である技術やノウハウをはじめとした営業秘密管理の徹底に努めています。

活動の必要性を伝えることが重要

シチズングループの工作機械事業を牽引するシチズンマシナリーミヤノでは、2011年度に営業秘密管理システム構築推進委員会を発足して活動を開始し、2012年度からシステムの実運用に入りました。構築にあたっては、「営業秘密管理における5つのポイント」(右下枠)を掲げて地に足の着いた活動をめざし、推進委員会メンバーと各部門長が部門特有の事情や個別課題に対する認識の共有を図るなどして「一緒に考える」ことを主眼に進めてきました。

また、このシステムを社内に浸透させる上で推進メンバーが一番重視したことは、「なぜこの活動が必要なのかを全従業員に認識してもらうこと」で、営業秘密管理の目的をしっかりと理解してもらうことでした。これにより営業秘密管理の運用を具体的に実施するということは、自社のもつ強みを把握・強化することであり、グローバル企

業として競争力を維持・向上し続けるために必要不可欠な活動であるという意識が社内に深まりました。

これからも製品の開発・製造・販売・サービス・管理などに関わる営業秘密のみならず、それらに付随した新たなビジネスモデルの付加価値の源泉となる情報管理も徹底して、企業価値の向上をめざします。

営業秘密管理における5つのポイント

- ① 自社にとって大事な情報を適切に保護すること
- ② 営業秘密を適切に管理することは法的保護を受けるための前提条件
- ③ 営業秘密は実効的な管理を行うことが重要
- ④ 自社の情報のみならず他社からお預かりした営業秘密も同じように保護すること
- ⑤ 海外拠点へも確実な管理運用展開が不可欠

営業秘密管理を徹底し、 企業価値の向上をめざす



シチズンマシナリーミヤノ
営業秘密管理システム
構築推進委員会メンバー(写真左から)

萩原 茂雄
松尾 誠之助
岸村 裕司
大竹 篤喜
山岸 直文